

### Summary

In the surveying study of geographic distribution of the prasinophycean algae along the coast of Japan, we have confirmed 32 localities as the growing sites in addition to the localities cited in a previous paper (1975). Of these new localities, 30 are for *Platymonas* and 2 for *Prasinocladus*.

### 引用文献

- 1) 谷本静史・堀輝三 (1975) 本邦沿岸におけるプラシノ藻の分布について (1)。藻類, 23: 14-18.
- 2) 千原光雄・吉崎誠 (1970) 対馬沿岸の海藻相と海藻群落。国立科博専報, 3: 143-158.

□ 柳田友道: 赤潮. i-xii+198 pp. 1976. 講談社. 東京. 1700 円.

水界生態系の栄養構造と水域の栄養環境の概説に続き、赤潮について、その歴史と現状、いくつかの地域における発生の模様を述べ、次いで赤潮生物の分類、生理、生態を、水産学、生物学あるいは海洋学など、異なる学問分野で得られた多数の研究成果を踏まえてわかりやすく記述している。この章は著者が本書で最も重点的に取扱ったといわれ、記述も約 100 頁に及ぶ。さらに、終りに近く、赤潮の被害とその対策などの章があり、最後に、赤潮を理解するためのおもな参考書、文献48が挙げられ、読者の便に供されている。赤潮について、従来の研究はどのように行われてきたか、現在のわれわれの知識はどの程度であるか、これからの研究はどのように進められるべきであるかなど容易に理解させてくれる。異なる学問分野で、特有の手法で研究され、独特な表現で発表されてきた赤潮についての知見を、取り纏めて整理し、同一基盤の上に組立てなおし、理解しやすい形で読者に提供したいと望んだ著者の意図は成功しているといつてよい。なお1章は市村俊英氏、5章の一部は関文威氏がそれぞれ分担執筆している。

(筑波大学生物科学系 千原光雄)